

平成26年度
全国学力・学習状況調査結果公表3

平成26年 11月10日
滋賀県教育委員会事務局学校教育課

○ 平成 26 年度全国学力・学習状況調査 公表 3 について

平成 26 年度の全国学力・学習状況調査の結果を設問ごとに分析すると、主に知識を問う A 問題で、とりわけ学年ごとに身に付けておかなければならない、基礎的・基本的な知識・技能が十分に定着していないことがあるとわかりました。

また、知識・技能を活用するためには、日ごろから本を読んだり、考えをまとめて書いたり、自分の意見を説明したりすることで、言語力を身に付けることが大切です。加えて、算数・数学においては、生活と関連付け数量関係を的確にとらえることで、考える力を身に付けることも大切です。

[設問ごとの分析から]

<例 1> 「知識」に関する問題【小学校算数 A】

1 (5) $100 - 20 \times 4$ (県平均正答率 76.8%、全国 80.9%) 正答は 20

小学校第 4 学年で学習する内容です。「 $100 - 20$ 」から順に計算して、「 320 」と解答している誤答が 19.7%あります。(詳細は p 11~参照)

☆ 計算などは繰り返し練習し、技能を身に付けることが必要です。

☆ 計算のきまりを覚えるだけでなく、具体的な場面に関連付けるなどして理解をしましょう。

<例 2> 「知識」に関する問題【中学校国語 A】

8-2 「円のハンケイを求める」漢字を正しく書く (県平均正答率 55.4%、全国 59.5%) 正答は「半径」

「径」は、小学校第 4 学年で学習する漢字です。39.2%の生徒が「径」を「経」や「形」などと間違っています。(詳細は p 15~参照)

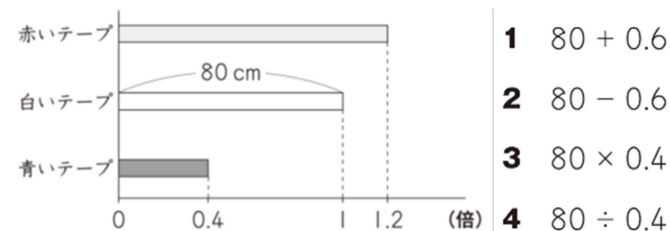
☆ 漢字の学習は繰り返し書いて覚えることに加えて、漢字の形や画数、読みや意味などを確実に理解することが大切です。

☆ 字形の似ている漢字の意味の違いを、「へん」や「つくり」「かんむり」などの部首と関連づけて学習し、熟語や文中でどのような意味で用いられているかを確認しながら学習を進めましょう。

☆ 予習に力を入れ、知らない漢字や語句などは自分から辞書で調べる習慣を付けましょう。

<例 3> 「知識」に関する問題【小学校算数 A】

2 (2) 小数の乗法・除法の意味 (県平均正答率 49.9%、全国 54.1%) 正答は 3



示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ (80 cm) の 0.4 倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ問題です。「4」を選択している誤答が 28.8%あります。(詳細は p 12~参照)

☆ なぜその式になるのか理由を考えたり、図を使って説明したりすることが大切です。

☆ 算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしましょう。

☆ 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活かすことができないか考えましょう。

<例4>「活用」に関する問題【中学校国語B】

2三 「水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書きなさい」

(県平均正答率 25.5%、全国 28.4%)

複数の資料から必要な情報を読み取り、読み取ったことを基にして説明する問題です。さらに、次の2つの条件にしたがって書くことが必要です。答えを書かなかった生徒が22.9%あります。(詳細はp19~参照)

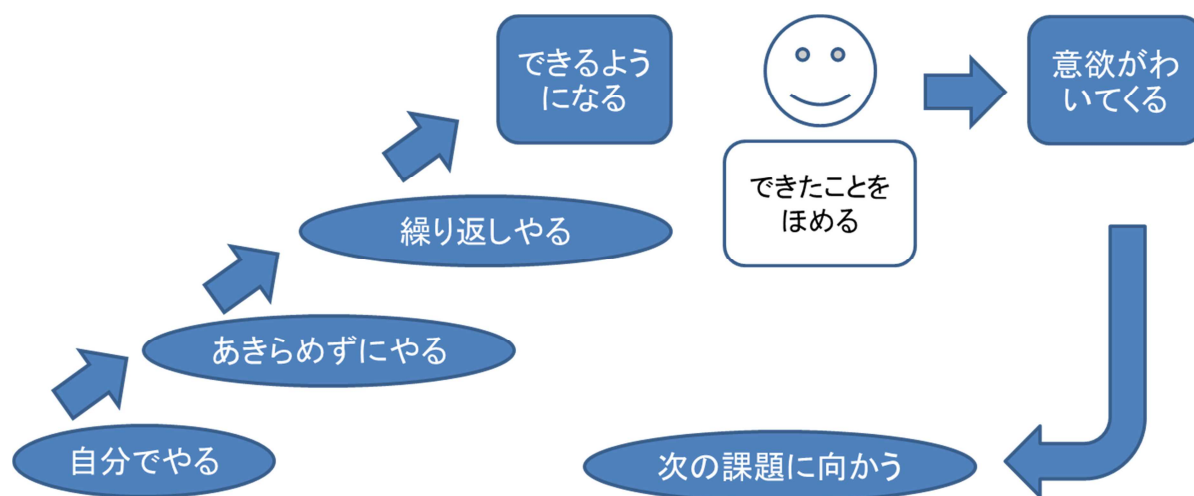
条件1 「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと。

条件2 二十字以上、五十字以内で書くこと。

☆ 日ごろから本などを読み、自分の考えを深めることが必要です。

☆ 考えをまとめるために書いたり、人と意見を交流したりして、正しく考えを伝える力を付けましょう。

学年ごとに身に付けておかなければならない、知識・技能が十分に定着していないと、その後の学習に困ることが多くあります。そのような内容が十分身に付いているかを確認し、その学年のうちにも何度も学び直しをして、次の学習意欲を高め、学習習慣をつけることが大切です。



※学習習慣をしっかりと身に付け、子どもたちが自分で成長を実感し、新たな学習への挑戦が始まります。